

令和8年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果及び授業改善のポイント

授業改善のポイント

【調査目的】

- 1 児童の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教職員の指導力の向上を図り、学力向上施策に資する。
- 2 教育課程や指導方法等にかかわる課題・解決策を明確にし、児童一人一人の学力の定着と伸長を図る。
- 3 保護者及び市民に対し、本校児童における学力の定着状況について、説明責任及び結果責任を果たす。

【調査学年】

- 第6学年 64 名

【調査日】

- 令和8年4月23日（木）

【調査の内容】

- 1 教科に関する調査〈選択式・短答式・記述式の3種類〉
・国語 ・算数
- 2 児童質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

目 次

1	国語の調査結果	1
2	国語の問題と分析・学習のつまずきの系統・授業改善のポイント	3
3	算数の調査結果	7
4	算数の問題と分析・学習のつまずきの系統・授業改善のポイント	9
5	児童質問紙調査結果の概要	13
6	各教科等における授業改善のポイント	裏表紙
7	カリキュラム・マネジメント	裏表紙

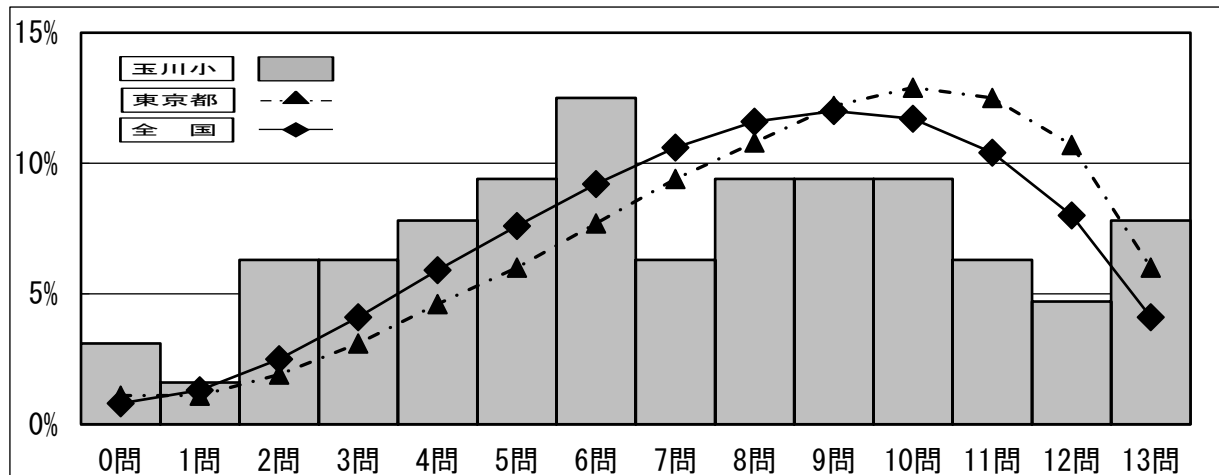
令和8年 8月
昭島市立玉川小学校
校 長 小瀬 和彦

1 国語の調査結果

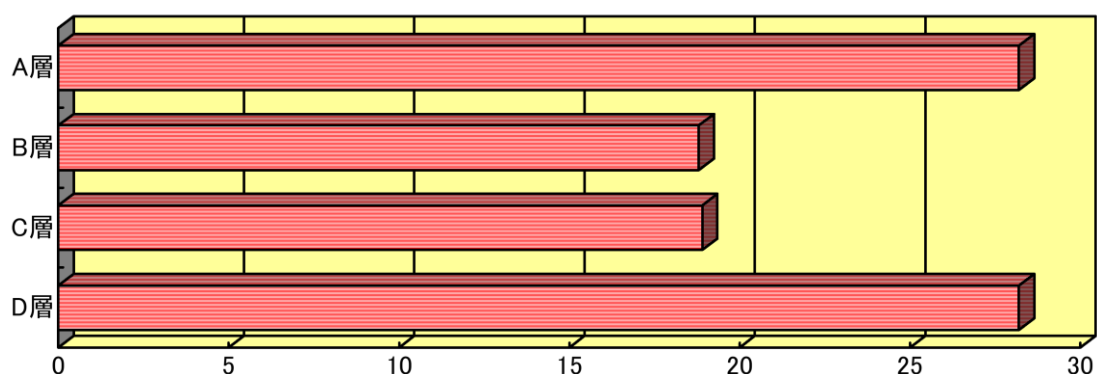
(1) 国語の調査結果の概要

平均正答率〈％〉	本校 55.0％	東京都 65.0％	全国 60.9％
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



〔％〕

(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

			対象問題数 (13 問)	平均正答率 (55.0%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	全体	13	55
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	60.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	41.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	—
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.0
		B 書くこと	2	43.8
		C 読むこと	2	56.3
評価の観点	知識・技能		6	53.9
	思考・判断・表現		2	55.1
	主体的に学習に取り組む態度		0	—

(3) 国語の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要 (出題の趣旨)	本校		全国 (公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 一	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する。(相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。) 〔話す・聞くこと (第 3・4 学年)、思考・判断・表現〕	71.9%	1.6%	73.9%	0.8%
1 二 (1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。(資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。) 〔話す・聞くこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	51.6%	1.6%	60.2%	0.6%
1 二 (2)	【動画の一部】の□の部分の工夫として適切なものを選択する。(資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。) 〔話す・聞くこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	62.5%	1.6%	63.2%	0.7%
1 二 (3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する。(比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。) 〔言葉の特徴や使い方 (第 5・6 学年)、知識・技能〕	57.8%	1.6%	65.2%	0.8%
2 一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。(筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えることができる。) 〔書くこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	53.1%	6.3%	57.9%	0.8%
2 二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する。(考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。) 〔情報の扱い方 (第 3・4 学年)、思考・判断・表現〕	35.9%	9.4%	48.9%	1.1%
2 三 ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを漢字を使って書き直す。(みじかい)〔第 5・6 学年 知識・技能〕	73.4%	9.4%	80.0%	4.3%
2 三 イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを漢字を使って書き直す。(ふしぎ)〔第 5・6 学年 知識・技能〕				
	学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。〔言葉の特徴や使い方〕	43.8%	7.8%	45.2%	6.6%
2 四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して、考えが伝わるように書く。(引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。) 〔書くこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	34.4%	12.5%	33.5%	5.2%
3 一	【文章】の特徴として適切なものを選択する。(話や文章の種類とその特徴について理解することができる。) 〔言語の特徴や使い方 (第 5・6 学年)、知識・技能〕	65.6%	6.3%	76.7%	2.2%
3 二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する。(情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。) 第 1・2 学年 〔情報の扱い (第 5・6 学年)、知識・技能〕	46.9%	7.8%	55.6%	2.5%
3 三 (1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。(目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。) 〔読むこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	46.9%	10.9%	55.5%	3.3%
3 三 (2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けて書く。(文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。) 〔読むこと (第 5・6 学年)、思考・判断・表現〕	65.6%	26.6%	76.4%	15.6%

2 国語の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られるの問題と分析

【問題の概要】国語2

花山さんの学級では、夏を快適に過ごすための工夫について調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことになりました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服の工夫」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、後の問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでが みじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか ふしぎに思い、暑い夏を 快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しや日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだな。

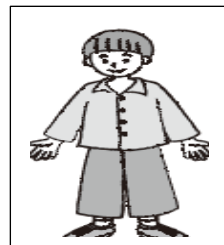
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しようかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだな。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



2 花山さんは、【花山さんの文章の一部】の傍線部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。傍線部①に続く文として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
- 2 例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
- 3 例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
- 4 例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

【分析】本問は、「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかを見る問題であり、正答は、()で、正答率は、35.9%である。具体的には、【花山さんの文章の一部】で示された考え(工夫)に基づいた事例(必要な情報)を適切に取り出して解答するなど、情報と情報との関係を理解して解く問題である。

解答類型を見ると、43.7%の児童が、「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだをだしすぎないように着る物を工夫する」という考えとそれを支える理由の意味を十分に理解できなかったことによるものと考えられることができる。

したがって、実際の指導に当たっては、『理由』は、なぜそのような『考え』をもつのかを説明するものであること、『事例』とは、『考え』をより具体的に説明するために挙げられた事例や内容であること」を、例文を基に十分、考え、吟味できる場面を意図的・計画的に設定する必要がある。

(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】国語² 四

花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、に入る内容を、どのように書きますか。あとの〈条件〉に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、

5 終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感ぜさせます。

【条件】

- 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
- ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎカッコ(「」)でくくること。
- ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
- 百四十字以内にまとめて書くこと。

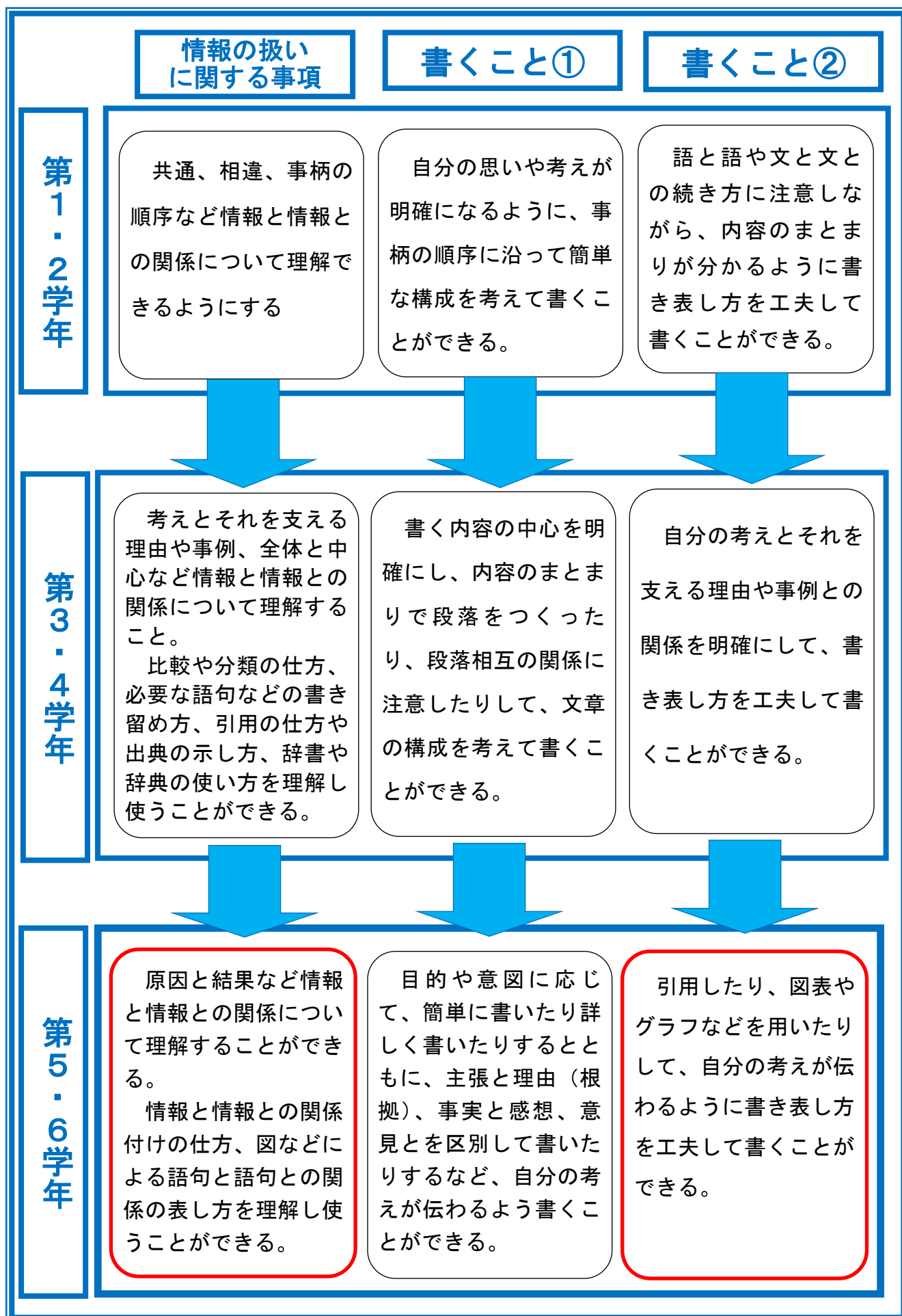
(正答例)

- ・ 「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやする色のため、熱くなり にくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。(123字)
- ・ 青は青でも、うすい青を選んで着るとよさそうだ。なぜなら、「夏のくらし方」には、「白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている 人だけでなく、周りの人にもすずしさを感ぜさせます。」と書かれているからである。(111字)
- ・ 「夏のくらし方」という本には、「白やうすい青はさわやかに見え、すずしく 感じます。」と書かれている。さらに、「生活と太陽」という本には、「白は熱や 光を反しやする色のため、熱くなりにくい。」と書かれている。これらのことから、白を選ぶと、着ている人も周りの人もすずしく過ごせそうだ。(138字)

【分析】本問は、「暑い夏を快適に過ごすための衣服の工夫」(主張)を読み取り、「衣服の色」の観点から、主張に基づいた情報を取り出し(引用)、自分の考えが伝わるようまとめる(書く)ことができるかどうかをみる問題であり、正答率は、34.4%である。

実際の指導では、引用に当たって、まず何のために引用するのかという目的を明確にするとともに、引用した部分と自分の考えと矛盾していないか、補完するものになっているか、吟味・検討する場面を意図的・計画的に設定し、指導する必要がある。

(3) 学習のつまずきの系統



(4) 授業改善のポイント

課題：「目的や意図に応じて文章から論旨（結論・理由・根拠・道筋）を読み取り、『話したり・聞いたり』することによって確実に読み解き、論旨に対する自分の考えを『書くこと』により説明し、自分の考えを深め、拡げること」に課題がある。
 （R6・7・8年度 全国学力・学習状況調査における分析結果より）

玉川タイム 言語活動 10 分間チャレンジ〈10 チャレ〉指導過程

◇第1部

①〈黙読タイム〉すばやく全文を黙読する。 ⇒話の全体像（構造と内容の把握）を捉える。	2分 「読むこと」
②〈微音読タイム〉微音読（自分だけに声が聴こえるような大きさ）で全文を音読する。 ⇒要旨（あらすじ、最も大切な部分・筆者の主張）を捉える。	2分 「読むこと」
③〈要旨書込みタイム〉要点をおさえ、「②」で捉えた要旨をワークシートに書き込む。※自宅で修正・加筆・改善してよい。	6分 「書くこと」

◇第2部

④〈微音読タイム②〉微音読で全文を読み、修正・改善を図る。 ⇒全文を微音読し精査・解釈を深める（「③」の修正・改善を図る）。	2分 「読むこと」
⑤〈学び合いタイム①〉「④」を発表⇒コメント（評価）をし合う。⇒「よさ」や「課題」を伝える。	5分「話す・聞くこと」
⑥〈論旨修正・改善タイム〉「⑤」を活かして精査・解釈を深める。	3分 「書くこと」

◇第3部

⑦〈微音読タイム③〉微音読で全文を読み、自分の考えを形成する。⇒全文を微音読し、自分の考えをつくる。	2分 「読むこと」
⑧〈自分の考え表現タイム〉「⑦」をもとに、自分の考えを表現する。⇒論旨を基に、自分の考えを書く。	2分 「書くこと」
⑨〈学び合いタイム②〉「⑧」を発表⇒コメント（評価）をし合う。⇒「よさ」や「課題」を伝える。	3分「話す・聞くこと」
⑩〈自分の考え改善タイム〉「⑧」をもとに、自分の考えを深め拡げる。⇒「自分の考え」を簡潔にまとめる。	3分「書くこと」

◇第4部

⑪〈学び合いタイム③〉「⑩」を発表⇒コメント（評価）をし合う。⇒「よさ」や「課題」を伝える。	5分「話す・聞くこと」
⑫ 同じ週内の「帰りの会」等の時間で第1部から第3部までの「振り返り」（「自分の変化・成長等」）を行い（セルフ・モニタリング、セルフ・コントロール）、ワークシートに記入させること。	3分 「メタ認知」

○ 指導原理

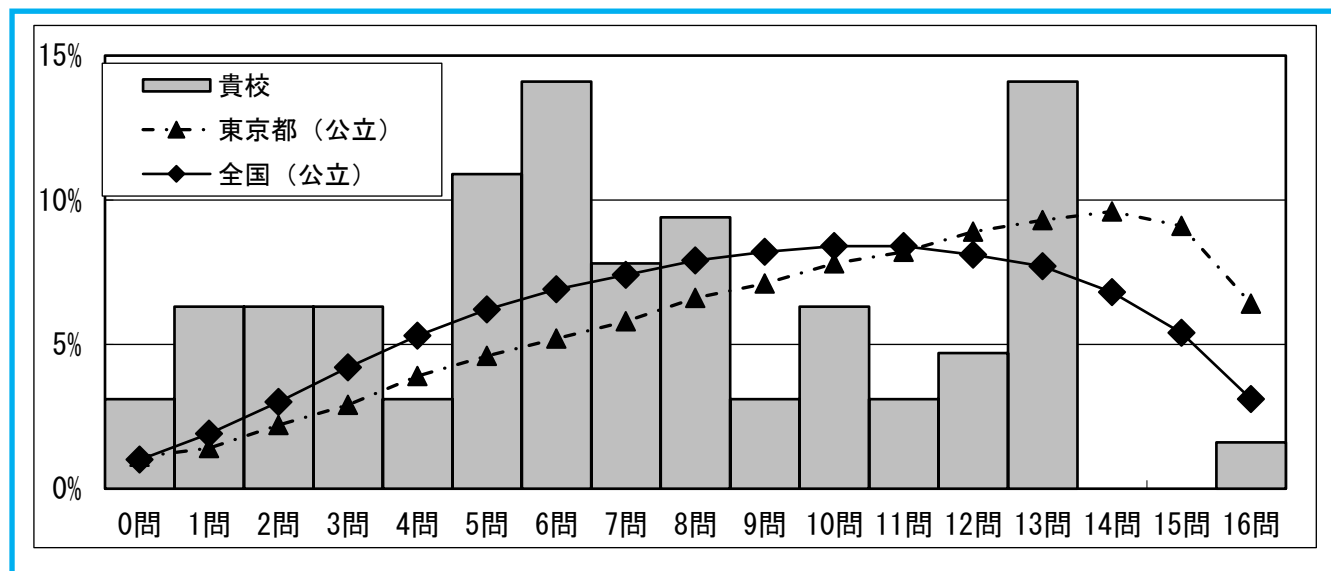
- 1 指導に当たって、「完成」・「完全」・「正解」を求めない。
- 2 時間を厳守する（集中力・思考力・判断力・表現力等を育むため）。
- 3 指導論理（次頁）にしたがって、指導・助言する。

3 算数の調査結果

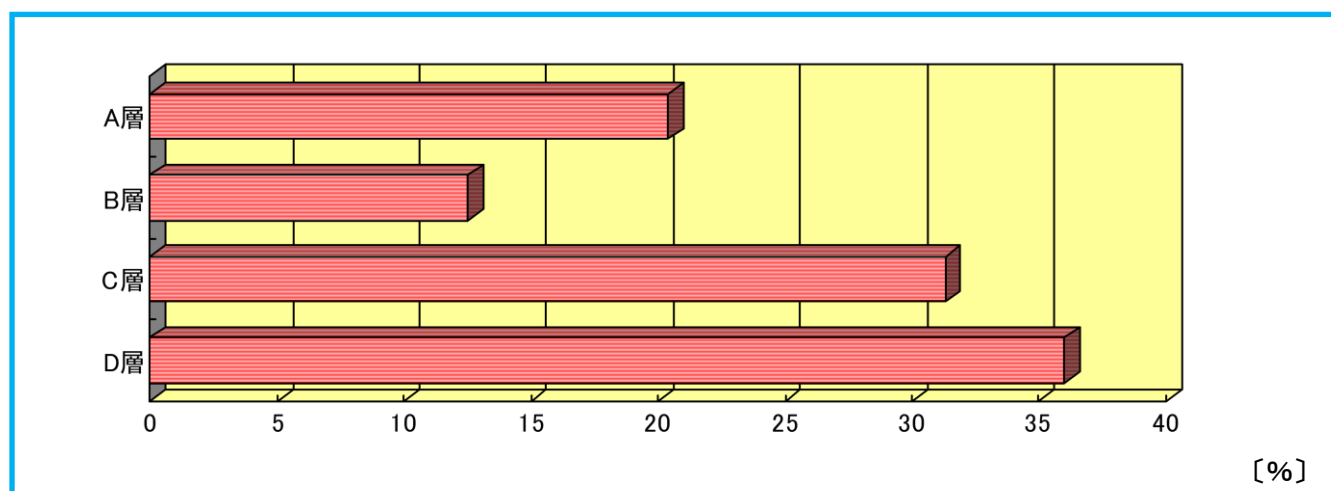
(1) 算数の調査結果の概要

平均正答率〈％〉	本校 44.0％	東京都 63.0％	全国 56.4％
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

		対象問題数 (16 問)	平均正答率 (44.0%)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	48.6
	B 図形	4	43.0
	C 測定	1	67.2
	C 変化と関係	3	29.2
	D データの活用	4	37.5
評価の観点	知識・技能	12	48.9
	思考・判断・表現	4	32.8
	主体的に学習に取り組む態度	0	

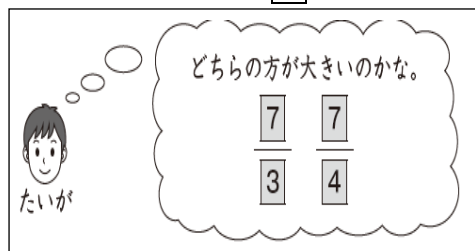
(3) 算数の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要	本校		全国(公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 (1)	一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く。(立方体の体積の計算による求め方について理解している。) 〔図形(第5学年)、知識・技能〕	50.0%	1.6%	72.7%	1.3%
1 (2)	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く。(直方体の箱の形を構成する面について理解している。) 〔図形(第2・5年) 知識・技能〕	57.8%	3.1%	63.0%	1.7%
1 (3)	1 cm ³ の立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く。(体積の意味について理解している。)[図形(第5学年)、知識・技能]	32.8%	4.7%	40.1%	4.2%
1 (4)	四つの箱のまとめ方によって宅急便の送料に違いがあることを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く。(日常生活の問題を解決するために、図形を構成する面について理解している。)[数と計算(第2学年)、図形(第4学年)、データの活用(第3学年)、思考・判断・表現]	31.3%	10.9%	45.2%	5.8%
2(1)	74291の百の位の数に四捨五入して、千の位までの概数で表した数を選ぶ。(数を四捨五入して、概数で表すことができる。) 〔数と計算(第4学年)、知識・技能〕	48.4%	4.7%	66.5%	1.0%
2(2)	イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。(百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる。) 〔変化と関係(第5学年)、知識・技能〕	35.9%	14.1%	53.1%	7.2%
2(3)	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について正しいものを選ぶ。(単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるかについて判断できる。)[変化と関係(第5学年)、思考・判断・表現]	23.4%	7.8%	36.1%	1.6%
2(4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。(基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。)[数と計算(第4学年)、変化と関係(第5学年)、知識・技能]	28.1%	7.8%	34.2%	1.5%
3(1)	1, 5, 9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く。(小数が整数と同じ十進法の位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。)[数と計算(第4学年)、知識・技能]	89.1%	3.1%	94.5%	1.0%
3(2)	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37-5と5-3.76を計算する。(整数と小数の減法の計算をすることができる。)[数と計算(第4学年)、知識・技能]	43.8%	6.3%	58.1%	2.2%
3(3)	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、その理由を書く。(異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる。)[数と計算(第4・5学年)、思考・判断・表現]	32.8%	4.7%	44.0%	3.2%
3(4)	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ。(単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができる。)[数と計算(第3学年)、知識・技能]	48.4%	9.4%	68.1%	2.7%
4(1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く。(示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の和言葉を用いて記述できる。) 〔データの活用(第3学年)、思考・判断・表現〕	43.8%	4.7%	56.2%	3.7%
4(2)	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く。(示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う数を読み取ることができる。) 〔数と計算(第2・3学年)、測定(第3学年)、知識・技能〕	67.2%	3.1%	78.1%	3.4%
4(3)	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。(二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。) 〔データの活用(第4学年)、知識・技能〕	7.8%	4.7%	17.9%	3.9%
4(4)	帯グラフから、「一緒に話ができたこと」の割合が何%かウイ選ぶ。(帯グラフの特徴と使い方理解し、およその割合を読み取ることができる。)[データの活用(第5学年)、知識・技能]	67.2%	14.1%	74.9%	6.9%

4 算数の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数[3](2)



7/3 と 7/4 では、どちらの方が大きいですか。下のアからウまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、数や言葉使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。

イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。

ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

正答例) 7/3 と 7/4 を通分すると、7/3 は 28/12、7/4 は 21/12 なので、7/3 の方が大きい。小数で表すと、7/3 は 2.33… 7/4 は 1.75 なので…。帯分数で表すと、7/3 は…

7/3 と 7/4 の分子は7で等しいです。7/3 と 7/4 の分母を比べると 7/3 の分母の方が小さいです。分子が等しいとき、分母が小さいほうが数が大きいので 7/3 の方が大きいです。

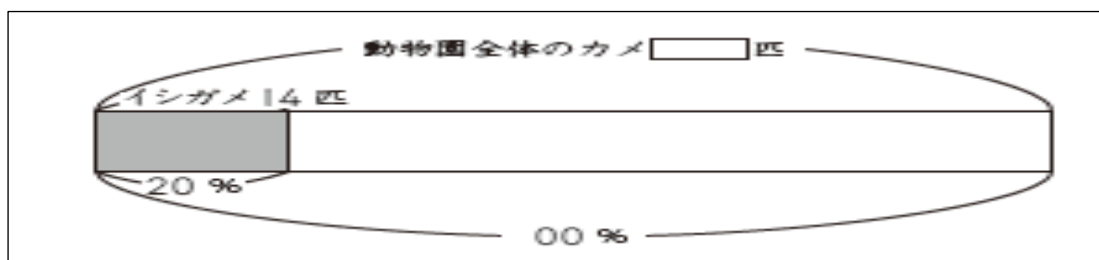
【分析】本問は、異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題であり、正答率は、32.8%である。

実際の指導に当たっては、まず、異分母の分数の大小を比較・判断する手立てを明確にすることである。具体的には、①「通分を用いた比較」、②「分数を小数で表した比較」、③「仮分数帯分数で表した比較」、④分子が等しいことに着目した比較が挙げられる。これらの大小比較について、数や言葉を用いて説明できるよう指導することが大切である。

(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

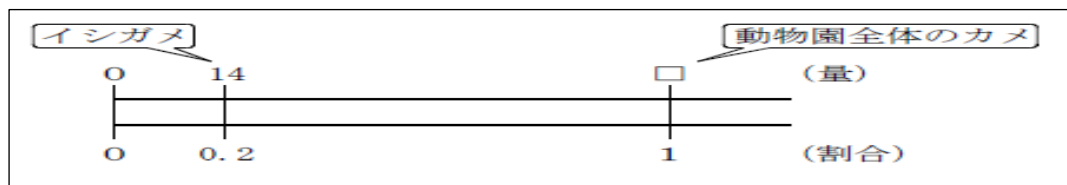
【問題の概要】算数2

この動物にはいろいろなカメがいます。そのうちイシガメは 14 匹います。イシガメの数は動物園全体カメの数の 20%です。



【分析】本問は、百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる問題であり、正答率は、35.9%である。

実際の指導に当たっては、下のような数直線図を活用して 20%が全体を1としたときの 0.2 に当たることと、比較量が 14 匹であることから、 $14 \div 0.2$ または $\square \times 0.2 = 14$ と立式できるよう指導することが大切である。



(3) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数2(3)

AとBの2つのペンギンの広場があります。

下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。

広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数(羽)	面積 (m ²)
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために次のような計算をしました。
 A $10 \div 20 = 0.5$ B $12 \div 30 = 0.4$

ことねさんの計算をもとに、どちらの広場の方がいるのかについて、下のようにまとめます。下のアとイ、ウとエの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は

ア 1 m²あたりのペンギンの数
イ 1羽あたりの面積

を求めています。

ウ 商が大きいAの広場
エ 商が小さいBの広場

の方がこんでいることがわかります。

商を比べると

【分析】本問は、単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から2つの広場のどちらが混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題であり、正答率は、23.4%である。

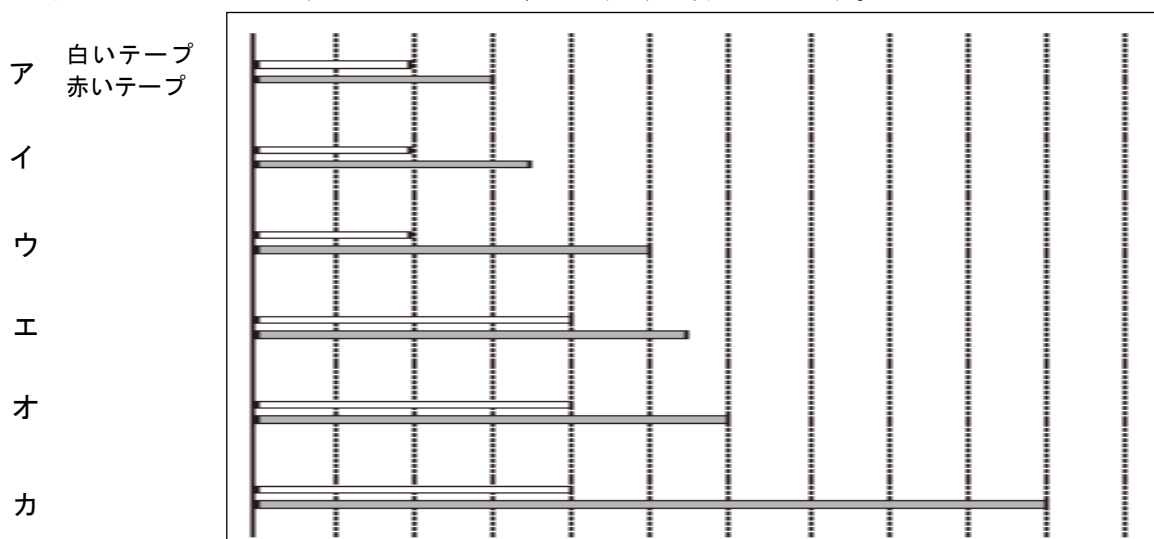
実際の指導に当たっては、「異種の2つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察する場面を意図的・計画的に設定するとともに、それらを日常生活に活かせるよう指導することが大切である。

(4) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数2(4)

赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図は、どれですか。

下のアからカまでのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



【分析】本問は、基準量、比較量、割合の関係を正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題であり、正答率は、28.1%である。

実際の指導に当たっては、比較量である赤いテープの長さが基準量である白いテープの長さの1.5倍であることから、例えば、基準量が目盛り二つ分のとき、比較量は $2 \times 1.5 = 3$ で三つ分目盛り、基準量が目盛り四つ分のとき、比較量は $4 \times 1.5 = 6$ で目盛り六つ分であることを具体的に捉えさせて指導することが大切である。

(5) 学習のつまずきの系統

数と計算

変化と関係

第1学年

数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) ものの個数を比べること。
(4) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を〈略〉日常生活に生かすこと。

数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり日常生活に生かしたりすること。

第2学年

数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり分類して数えたりすること。
(4) 数のまとまりに着目し、〈略〉

数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を利用して、計算を工夫したり、確かめたりすること

第3学年

分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること。
(4) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさ比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、日常生活に生かすこと。

数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) 数量の関係を表す式について理解するとともに、数量などを□などに数を当てはめて調べたりすること。
(4) 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて、簡潔に表したり式と図を関連付けて式を読んだりすること。

第4学年

分数とその加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 簡単な場合について大きさの等しい分数があることを知ること。
(4) 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それらを日常生活に生かすこと。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。
(4) 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を考察すること。

第5学年

分数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 整数及び小数を分数の形に直したり分数を小数で表したりすることができることを理解すること。
(4) 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。
(4) 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
(4) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
(7) 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

第6学年

分数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) 乗数や除数が整数や分数である場合を含めて、分数の乗法や除法の意味について理解すること。
(4) 分数の乗法及び除法の計算ができること。
(4) 数の意味と表現（略）多面的捉え考えること。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(イ) 比の意味や表し方を理解し、数量の關係比で表したり、等しい比をつくったりすること。
(オ) 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて数量の關係の比べ方を考察し、日常生活に生かすこと。

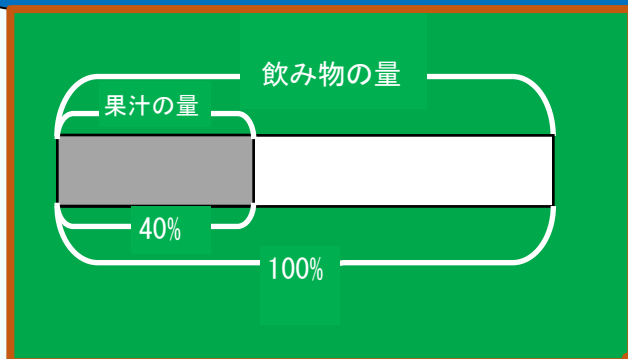
(6) 算数 授業改善のポイント

◇課題「問題場面の数量の関係を的確に捉えて（解釈して）立式し、問題解決を図り、数学的に説明すること」に課題がある。〈事象の変化と数量の関係の把握〉

問題1 オレンジの果汁が40%含まれている飲み物があります。この飲み物 1000mL には、果汁が何 mL 入っていますか。

⇒Q. どのような問題なのか？ 見通し（メタ認知）をもたせる。

⇒A. 「百分率で表された割合と基準量から、比較量の求め方（解法）を説明する問題」



果汁が 40%含まれている飲み物が 1000mL あるとき、割合が 40%であること、基準量は 1000mL だから、比較量は「基準量×割合＝比較量」で求められるから…

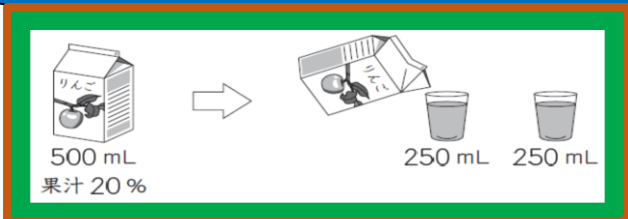
「 $1000 \times 0.4 = 400$ 」となり、答えは、果汁が 400mL 入っている。



問題2 りんごの果汁が 20%含まれている飲み物が 500mL あります。この飲み物を 2 人で等しく分けると 1 人分 250mL になります。250mL の飲み物に含まれている果汁の割合について説明しなさい。

⇒Q. どのような問題なのか？ 見通し（メタ認知）をもたせる。

⇒A. 「割合の意味を理解しているか説明を求める問題」



250mL は、500mL の $\frac{1}{2}$ の量です。このとき、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。



◇「事象の変化と数量の関係の把握」のための問題解決的な学習ステップ（過程）

ステップ1 二つの数量や事象の間の依存関係を考察し、ある数量が他のどんな数量と関係付けられるのか明らかにする。

ステップ2 伴って変わる二つの数量について対応や変化の特徴を明らかにする。

ステップ3 二つの数量の間の関係や変化の特徴を問題解決において活用する。

問題3 A動物には、いろいろなカメがいます。そのうちイシガメは 14 匹います。イシガメの数は、動物店の図のような五角形アイウエオを 2 つの図形に分けて面積を求めるとき、どこに直線を引きますか。二つの図形の面積の求め方について説明しなさい。



○動物園全体のカメの数が（□）が基準量、イシガメの数（14）が比較量であることを捉え、例えば、 $\square \times 0.2 = 14$ と立式し、□を求めるために、 $14 \div 0.2$ を計算することが必要です。

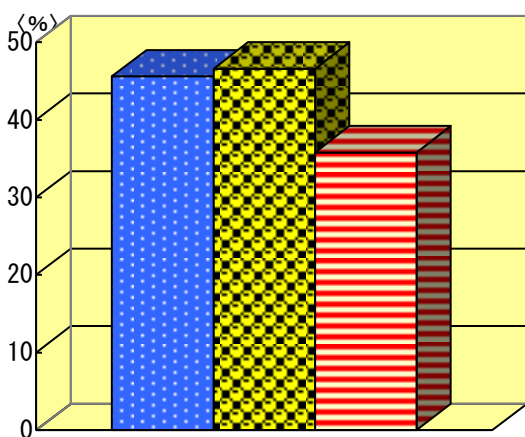


5 児童質問紙調査結果の概要

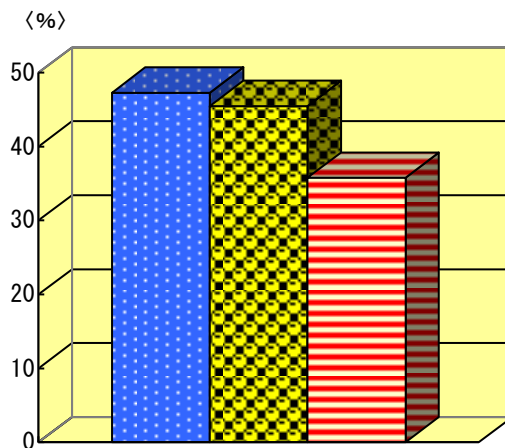
(1) 児童質問紙調査結果の概要①

下記のグラフは、児童質問紙において、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と「どちらかといえば当てはまらない」・「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。
 * 全国：  東京都：  本校： 

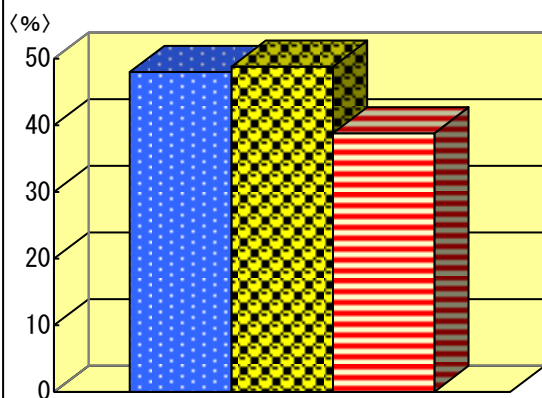
① 「自分には、よいところがありますか。」



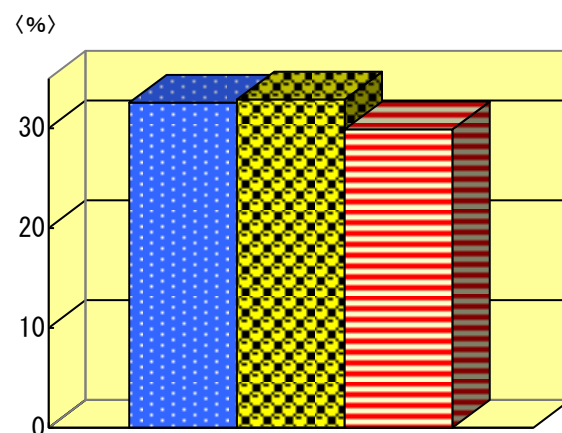
② 「人が困っているときは、進んで助けていますか。」



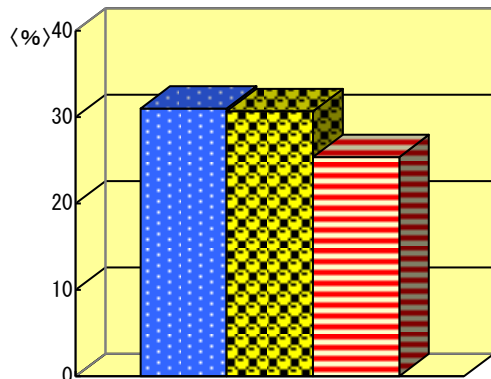
③ 「学校に行くのは、楽しいと思いますか。」



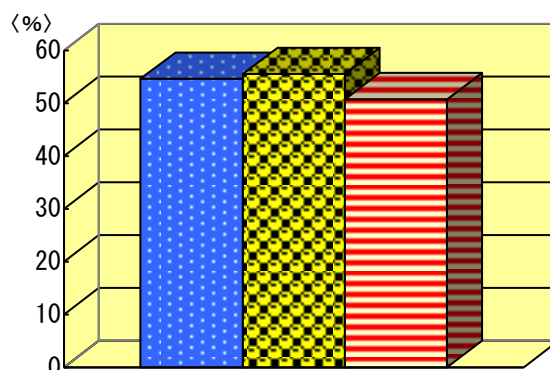
④ 「自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」



⑤ 「地域や社会をよくするために何かを試みたい。」



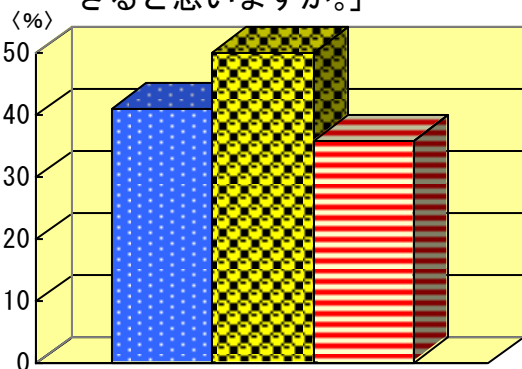
⑥ 「普段の生活の中で幸せの気持ちなることはどれくらいありますか。」



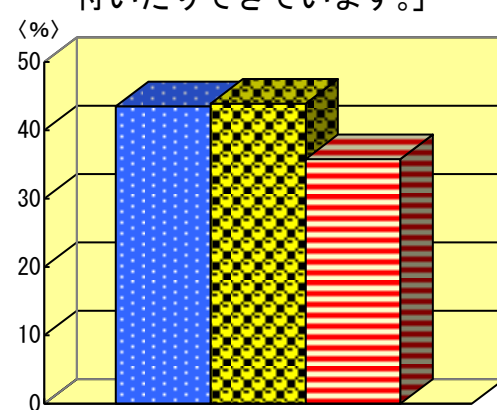
(2) 児童質問紙調査結果の概要②

下記のグラフは、児童質問紙において、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と「どちらかといえば当てはまらない」・「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。
 * 全国：  東京都：  本校： 

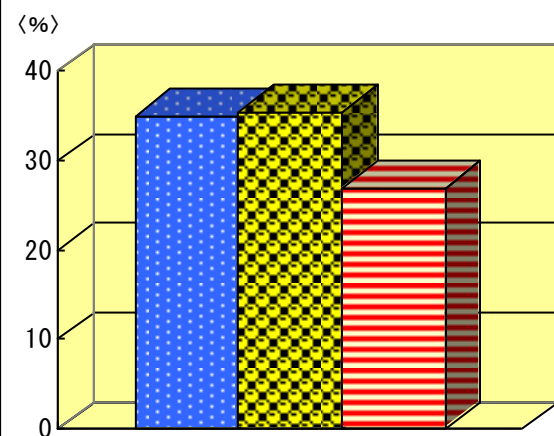
⑦「あなたはICT機器を使って学校でプレゼンテーションを作成することができますか。」



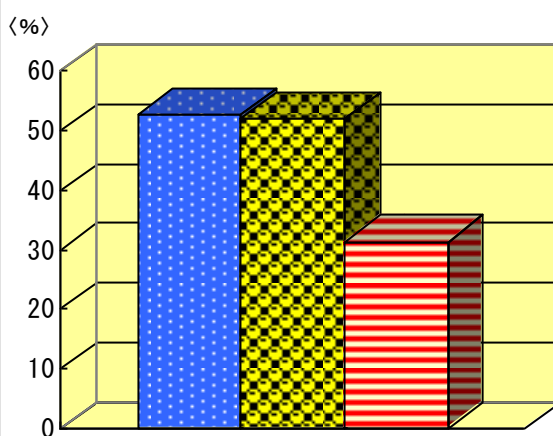
⑧「友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりできています。」



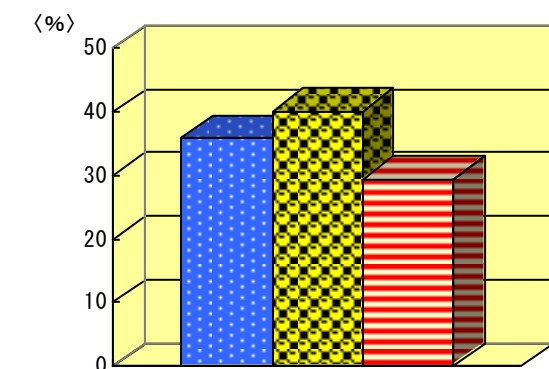
⑨「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けていますか。」



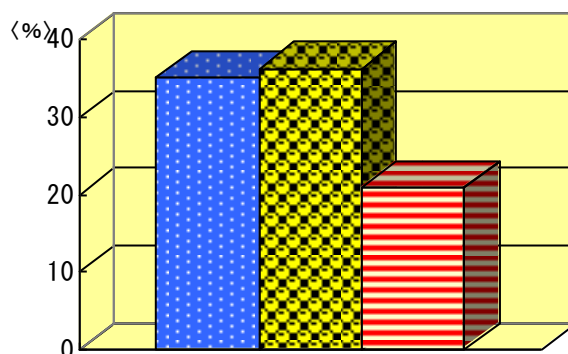
⑩「授業や学校生活では、お互いに協力して課題解決を図っていますか。」



⑪「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか。」



⑫「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」



6 各教科等における授業改善のポイント

重点事項

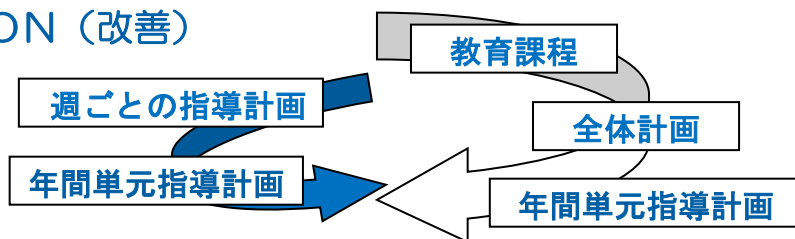
- (1) 各教科等の授業・朝学習において「読み解く」段階を意図的・計画的に設定する。
 - ① 複数の「連続テキストと非連続テキスト」から目的に応じた情報を正確に取り出す場面
 - ② 取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る場面
 - ③ 読み取った内容の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する場面
- (2) 各教科等の授業・朝学習と国語科（「書くこと」の場面と「話すこと・聞くこと」の場面）とのカリキュラム・マネジメント（クロス・カリキュラム）を図る。（p3.を参照すること）
 - ① 題材の設定（→情報の収集→内容の検討） ② 構成の検討（構成案の作成→伝え合って→検討する→構成の確定） ③ 考えの形成・記述1（構成にしたがい、考えを記述〈下書き〉→伝え合って→検討する） ④ 考えの形成・記述2（説得力のある文章〈理由・根拠〉→伝え合って→検討する） ⑤ 推敲（伝え合って→推敲する） ⑥ 共有
- (3) 単位量当たり大きさ、基準量・比較量・割合の意味理解できるよう具体的に指導する。
- (4) 導入時に「見通し（見積り、仮説、予想〈理由〉）」をもたせること、終末時に「ふりかえり」をさせる指導を徹底する。
- (5) 「実験結果を表などに整理し、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理し説明する」場面を意図的・計画的に設定する。
- (6) 「玉小 授業カスタンダード」に則った授業を展開する。
- (7) 玉川タイムで「言語活動 10 分間チャレンジ」を行い、その習慣化を図る。
- (8) 「玉小 学級カスタンダード」の実践の徹底を図り、学級力向上の PDCA サイクル化を図る。

7 カリキュラム・マネジメント

(1)カリキュラムのPDCAサイクル化

- ① 年間指導計画を、当該学年の各教科について「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、学期ごとに、各学年・専科担当（横串）が年間指導計画をチェック（大胆に朱を入れること）する。
- ② 「①」を吟味・検討し、「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、上記の観点から、各教科担当（縦串）が次年度に向け年間指導計画を完成させる。

(2) ACTION（改善）



☆ 教育課程→全体計画→・・・←単元指導計画←週ごとの指導計画の、両方向からの評価改善を実施、それぞれを有機的に関連付け、系統化を図っていく。

◇ 改善の視点

- ① 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力について
- ② 「何を学ぶのか」学習（指導）内容（学ぶ意義）・教育課程の編成
- ③ 「どのように学ぶのか」学習（指導）方法・指導計画の作成
- ④ 「何が身に付いたのか」学習評価
- ⑤ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」発達を踏まえた指導
- ⑥ 「実現するために何が必要か」必要な方策